ISI Independent Schools Inspectorate

重点的コンプライアンス及び教育の質の監査結果

寄宿学校用

帝京ロンドン学園

February 2020

目次

目次 2

学校の詳細 3

1. 背景情報 4

学校について 4

学校目標 4

生徒について 4

2. コンプライアンスの監査 5

序文 5

主な調査結果 7

第 1 部 – 教育の質について 7

第 2 部 – 生徒の精神的、道徳的、社会的、文化的発達について 7

第 3 部 – 生徒の福祉、健康、安全について 7

第 4 部 – 教職員と経営者の適性について 8

第 5 部 – 学校の施設と寮について 8

第 6 部 – 情報の提供について 8

第 7 部 – 苦情処理の方法について 8

第 8 部 – 学校におけるリーダーシップとマネジメントの質について 9

3. 教育の質の監査 10

序文 10

主な調査結果 11

推奨事項 11

生徒の学業およびその他の成果の質 12

生徒の個人的な成長の質 14

4. 監査証拠 17

学校の詳細

学校	帝京ロンドン学園			
学校番号	825/6013			
登録された慈善団体番号	1001232			
住所	Teikyo School (UK) Fulmer Grange Framewood Road Wexham Buckinghamshire SL2 4QS			
電話番号	01753 663711			
メールアドレス	teikyo.school@teikyofoundation.com			
学校長	Mr Hideharu Tsutsumi			
事業主	Mr Kenji Horikawa			
年齢層	15 to 18			
生徒数	60			
	通学生	10	寮生	50
	1 年生	13	2・3 年生	47
監査日程	2020 年 2 月 11 日〜13 日			

1. 背景情報

学校について

1.1 1989 年に設立された帝京スクール（英国）は、15 歳から 18 歳までの生徒を対象とした独立した共学の全日制及び寄宿学校です。

1.2 学校は、帝京大学グループが所有および運営する世界的な教育機関グループの一部です。イギリスでは、学校は単一の経営者がいます。 前回の監査以来、学校はデジタル学習機器を設置しています。 現在の校長代行は 2019 年 9 月に着任しました。

学校目標

1.3 学校は、生徒が英語のスキルを向上させ、共同生活を通じて他者に共感し、尊敬することを学ぶことを目指しています。 人生の次のステップに向けて準備ができているグローバルな人々を育てることを目指しています。

生徒について

1.4 生徒はさまざまな背景から来ています。 大半は日本から来ていますが、残りの生徒は学校から通学可能な距離に住んでいる日本の家庭から来ています。 ほとんどの生徒は寮生です。学校自身の評価は、生徒の能力は平均的であるとしています。 学校は、特別な教育的ニーズおよび/または障がい（SEND）があると 6 人の生徒を認定し、全員が特別に専門の教員の支援を受けています。 学校の生徒には、教育、健康、ケア（EHC）計画がありません。 英語はすべての生徒にとって第二言語（EAL）であり、生徒のニーズは担任の先生によってサポートされています。 学校で使用されているデータにより、8 人の生徒が学校の中で最も有能であることが特定され、スポーツの才能のために、生徒と他の生徒の教育が変更されています。

2. コンプライアンスの監査

序文

私立学校監査団（ISI）は、国務長官の認可を受けた機関であり、私立学校評議会（ISC）を構成する協会に加盟している学校、またはその校長が加盟している学校を監査し、教育（独立学校基準）規則 2014 年版の私立学校基準（以下「基準」）を満たしているかどうかを報告することを目的としています。したがって、監査では、学校がこれらの基準を満たしているかどうかを記録します。さらに、監査では、2010 年の平等法のスケジュール 10 に基づく学校のアクセシビリティ計画と、1996 年の教育法第 548 条に基づく体罰の禁止についても報告しています。また、学校の最新の法定検査で定められた遵守事項を満たすための学校の進捗状況についてもコメントしています。

この監査には、「寄宿学校のための国家最低基準法」（以下「寄宿学校の NMS（ナショナル・ミニマムスタンダード）」）に関する具体的な判断も含まれています。また、この監査では、最新の法定全寮制学校監査で定められた遵守事項を満たすための学校の進捗状況についてコメントし、学校が現在どの程度寄宿学校の NMS を満たしているかを判断しています。また、学校が満たされていない基準を特定し、その基準を満たすための行動を求めています。調査結果は、基準の 8 つの部分に関連するセクションに分散されています。

すべての協会に属する私立学校は、英国の枠組みと教育省（DfE）の要件に従って、2016 年 4 月から 3 年ごとに監査を受けることになっています。監査は、最新の監査からの知見を含む多くの要因に応じて、コンプライアンスのみの監査または教育の質とコンプライアンスの複合の監査のどちらかの可能性があります。寄宿学校の NMS を含め、基準を満たしていないと判断された学校は、次回の定期監査の前に進捗状況のモニタリング監査を受けることがあります。進捗状況のモニタリング訪問では、前回の監査で指摘された未達成基準を満たすために必要な措置を講じているかどうかが判断されます。

また、今回の監査は、会員の質の維持・向上のための ISC の取り決めのもとで行われました。

これは、後述する教育の質の監査と組み合わせて実施された重点的コンプライアンスの監査です。コンプライアンスの監査では、寄宿学校の NMS を含め、学校が基準に準拠しているかどうかのみが報告されます。基準は最低限の要求事項を示したものであり、基準を**満たしているか**、**満たしていないか**の判断がなされます。すべての学校は、その学校に適用されるすべての基準を満たすことが求められています。最低限の要件を満たしていない場合は、報告書の関連するセクションに明記されており、学校は指定された措置をとることが求められています。今回の重点的コンプライアンスの監査では、主要な規制や基準が詳細に調査されました。その中には、セーフガードに関する規定、いじめ防止策、生徒の健康と安全のための取り決め、教職員の適性をチェックする取り決め、保護者への情報提供、保護者からの苦情の処理、リーダーシップとマネジメントのその他の関連する側面、および同じ分野をカバーする NMS が含まれています。残りの基準と要件は、それに反する証拠が見つからない限り、引き続き満たされているとみなされます。

監査には、上記の規制の枠組み外の事項は含まれません。例えば、包括的な安全衛生監査、データ保護要件の遵守、学校の構造的状態やサービス、その他の物理的特徴の詳細な調査、保護者との契約上の取り決め、学校の財務的な実行可能性や会計手続きの調査などです。

監査官は、監査のプロセスの一環として、個人のセーフガーディング上の懸念、申し立て、苦情に気づくことがあります。このような事項は、通常、この文書の公表されている報告書では特に言及されていませんが、チームが判断を下す際に考慮されています。

完全な規則と要件へのリンクはこちらで確認できます：2014 年の「教育規則（私立学校）」,「寄宿学校のための国家最低基準法」（ナショナル・ミニマムスタンダード）

主な調査結果

2.1 帝京ロンドン学園は、2014 年の「教育規則（私立学校）」と、2015 年の「寄宿学校のための国家最低基準法」（ナショナル・ミニマムスタンダード）の基準を満たしており、本監査結果による措置の必要はありません。

第 1 部 – 教育の質について

2.2 帝京ロンドン学園では、英国の枠組みではなく、独自の枠組みを用いて達成度を決定しています。

2.3 カリキュラムは文書化されており、生徒のための適切な計画と指導計画に支えられており、必要な教材を幅広く用いています。適切な教材を使うことにより、授業は生徒の進歩を促し、効果的な行動管理を可能にしています。生徒の成績評価のための適切な枠組みも整備されています。

2.4 教育の質に関する基準【第 1 項から第 4 項】を満たしています。

第 2 部 – 生徒の精神的、道徳的、社会的、文化的発達について

2.5 学園の精神と価値が積極的に推進されていることにより、責任感があり、寛容で法を守る市民としての生徒の成長を促されています。寮生の意見は積極的に奨励され、彼らの意見や懸念事項は教職員によって適切に考慮されています。学園内で運営されている生徒会執行部の制度は適切に管理されています。

2.6 精神的、道徳的、社会的、文化的な発達に関する基準【第 5 項】、NMS の 17 および 19 を満たしています。

第 3 部 – 生徒の福祉、健康、安全について

2.7 現行の法律上のガイダンスを尊重しながら、生徒の福祉を保護し、促進するための取り決めがなされており、良い行動が促進され、いじめが合理的に実行可能な限り防止されており、火災安全に関するものを含む健康・安全要件が満たされており、応急処置が提供されています。生徒は適切に管理されており、必要に応じて入学書類と出席簿が保持されており、リスクアセスメントは計画的に取り組まれています。障がい者のためのアクセス計画も策定されています。

2.8 入寮したばかりの生徒のための適切な入学プロセスが実施されており、寮生の医療や健康管理、食事や飲み物、洗濯物や持ち物の管理などが適切に規定されています。寮生は、友だちや家族との適度に連絡をとることができ、アクティビティに参加することができます。寮のスタッフは適切なトレーニングを受け、配置されています。

2.9 福祉、健康、安全に関する基準【6-16】、2010 年平等法別表 10 の要件、1996 年教育法第 548 条に基づく体罰の禁止、および NMS の 2-4、6-12、15、16 を満たしています。

第 4 部 – 教職員と経営者の適性について

2.10 学園では、教職員と経営者が適切であるための確認を行い、必要に応じて学園への訪問者の記録を管理しています。寮への訪問者は、適切に監視されています。

2.11 生徒と接触する者の適性に関する基準【17-21】と NMS の 14 を満たしています。

第 5 部 – 学校の施設と寮について

2.12 生徒のための適切なトイレ、更衣室、シャワー室（基準で必要とされている場合）、医療や治療のニーズに応じた適切な寮施設が設備されています。学園施設は、健康安全に見合った基準に維持されており、音響・照明や水の供給も適切です。運動や体育に適切な屋外スペースが設備されています。寮施設は、生徒のニーズに適切に対応しており、安全対策と福祉に適しています。

2.13 施設と寮施設に関する基準【22-31】および NMS の 5 を満たしています。

第 6 部 – 情報の提供について

2.14 保護者、監査員、教育省にさまざまな情報が公開・提供され、利用できるようになっています。その中には、経営者の情報、学園の精神、カリキュラム、入学案内、生徒指導、いじめ、健康安全、応急処置、苦情手続きの詳細、前年度の正式苦情件数、および英語が母国語でない生徒のための規定も含まれています。また、前年度の学業成績の詳細、日本の模試結果、監査報告と、少なくとも年に一度の成績表の提供（保護者のみ）もされています。保護対策方針は、学園のウェブサイトに掲載されています。また、適切な寮の原則と、実践について陳述も学園によって公表されています。

2.15 情報提供に関する基準【32】と NMS の 1 を満たしています。

第 7 部 – 苦情処理の方法について

2.16 保護者による苦情があった場合は、三段階のプロセス（非公式、公式、三人の委員（その内一人は学園外部者）による聴聞会）を通じて、効率的に処理されています。各段階には、明確な時間的尺度が設けられてあり、第三段階で苦情委員会は、調査結果と勧告を作成して、苦情を申し出た人に伝えています。記録は、苦情結果に関わらず、取られた措置を含めて適切に保管されており、寮に関係する内容のものを特定しています。

2.17 苦情の処理に関する基準【33】と NMS の 18 を満たしています。

第 8 部 – 学校におけるリーダーシップとマネジメントの質について

2.18 経営者は、リーダーシップとマネジメント力を、優れたスキルと知識があることで、効果的に責任を果たす実証をしており、これによって各基準が満たされ、生徒が満足に学園生活を送れるように促しています。寮においても、適切なリーダーシップとマネジメント力により、必要な方針と記録が維持され、効果的に管理されています。

2.19 学校のリーダーシップとマネジメントに関する基準【34】と NMS の 13 を満たしています。

3. 教育の質の監査

序文

教育の質の監査は、学校の業績の質を報告するものです。以下の２つの主要な成果に焦点を当てています。

- 学力向上を含む生徒の成績
- 生徒の個人的な成長

前回の監査以降、監査の枠組みが変更されました。現在の監査の枠組みでは、以前の監査の枠組みで使用されていたものとは異なる基準と評定の取り決めが使用されています。したがって、今回の監査での判断は、前回の監査での判断と直接比較することはできません。

すべての私立学校は、私立学校の基準の要件を満たすことが求められています。しかし、各監査機関は、監査する学校の種類に応じて異なる枠組みを適用しています。ISI の用語は、少なくとも国の監査機関である Ofsted が使用しているものと同等の質の判断を反映しています。ISI の報告書は、学校の総合的な判断を提供するのではなく、生徒の主要な成果や学校の業績の質に関する情報を明確に判断しています。

判定は、「excellent」、「good」、「sound」、「unsatisfactory」のいずれかとなります。

必要に応じて、学校の学年グループを示すために、ナショナル・カリキュラムの名称を使用しています。学校独自の名称が国内で使用されている名称と異なる場合、その詳細は以下の表に記載されています。

学校独自の名称	*ナショナル・カリキュラムの名称*
K01	11
K02	12
K03	13

主な調査結果

3.1 生徒の学業成績およびその他の業績の質は、良好です。【good】

- すべての生徒は、全体的に良好な進歩を遂げており、ほとんどの教科で優れた知識、理解、技能を示しています。
- 生徒たちは、情報通信技術（ICT）のスキルをカリキュラム全体に適用していません。
- 生徒たちは、コミュニケーションスキルを十分に身につけています。
- 生徒たちは、教室を超えての自分の成果を示す機会が限られています。
- 生徒たちは、ある程度効果的な学習スキルを発揮していますが、高次の思考スキルを身につける機会が限られています。

3.2 生徒の個人的な成長の質は、良好です。【good】

- 生徒たちは、社会的スキルを十分に身につけており、他の生徒と効果的に協力しています。
- 生徒たちは、進んで学校内やより広い地域社会の人々の生活に貢献しています。
- 生徒たちの精神的な理解は、あまり進んでいません。
- 生徒たちは、自分たちの文化を深く尊重し、感謝することができています。

推奨事項

3.3 学校に対し以下の改善を行うことをお勧めします。

- カリキュラム全体での生徒の ICT スキルの適用を強化する。
- 生徒が授業以外でも幅広い成果を発揮できるように、より多くの活動を提供する。
- 生徒が高次の思考力を身につけ、それを発揮する機会を増やす。
- 生徒が精神的な理解を深める機会を増やす。

生徒の学業およびその他の成果の質

3.4 生徒たちの学業やその他の成果は良好です。【good】

3.5 生徒たちは、英国の公的試験を受けていません。学校から提供されたデータ、授業の観察、作品の精査、生徒との話し合いの結果から、３年生の終わりまでに、SEND の生徒を含め、すべての生徒が全体的に少なくとも良好な進歩を遂げていることが示されています。大多数の生徒が、第一志望または第二志望の大学への入学を達成しています。2018 年と 2019 年には、サッカーコースのすべての生徒が、サッカー協会公認のレベル 1 コーチングライセンスの取得に成功しました。事前調査のアンケートに回答した保護者のほとんどが、指導が生徒の進歩を可能にしていると述べており、アンケートに回答した生徒の大多数が同意しています。これは、教師がすべての生徒にサポートを提供し、生徒に課題について話しかけ、課題について効果的なフィードバックを提供しているからです。SEND の生徒は、週に一度の専門の教師によるサポートを受けることで、どれだけの恩恵を受け、それがどのように彼らの成長に役立っているかを語っています。アンケートに回答した生徒の大多数は、自分の課題に問題がある場合には、教師が手助けをしてくれることに同意しています。生徒の成長は、きちんと構成された評価プログラムを通して注意深く追跡されています。生徒たちは、定期的に担任の教師とテストの結果について話し合い、さらに向上するための目標を設定しています。また、すべての寮生の保護者は、寮生活が子どもの成長に役立っていることに同意しています。

3.6 生徒たちは、学習の各分野において優れた知識、理解、技能を示しています。舌の上の食べ物の感触が味の知覚に重要である理由を明確な文章で説明していることからもわかるように、生徒たちは教科の理解を示し、教科の知識を応用することができます。３年生の化学の授業では、生徒たちは構造異性体についての理解を示しました。教師が生徒がより積極的に学習に参加できるように計画された授業を用意した場合、生徒の知識、技能、理解度の向上がより早く達成されました。英語の授業では、国連の SGDs（持続可能な開発目標）に裏打ちされた非常に効果的なものでした。２年生の生徒たちは、現在進行形の使用、同音異義語や反意語について、英語と日本語での状況に応じた適切な例を用いての明解な教育によって、生徒の理解は促進されています。生徒たちは、個人の自立をテーマに日本語の小論文の構成方法を理解し、マインドマップを使って小論文を書くことができるようになっていました。サッカーコースに参加している生徒は、サッカーのスキルを十分に身につけています。

3.7 生徒たちは、コミュニケーション能力が十分に発達しています。生徒たちはお互いの話をよく聞き、教室での話し合いにも積極的に参加しています。３年生は、チームスポーツと個人スポーツのどちらが好きかについて、よく考えた上で論じた文章を作成していました。１年

生の英語の授業では、発展途上国での観光のメリットとデメリットに関する重要な用語を理解することができていました。１年生は、家族のことや自分たちの休日のことをとても繊細に書いていた。生徒たちがこのようなコミュニケーション能力を発揮するのは、教師が生徒たちに日本とイギリスでの経験を振り返り、その経験を仲間と共有することを奨励しているからであり、これは監査官が見た授業に共通する特徴でした。生徒たちは、例えば倫理的な食品の生産や消費について話し合うときなど、自分たちの言語や聞き取りのスキルを他の分野の学習にもうまく応用していました。監査官と面談をした生徒は、コミュニケーションスキル、特に話す力を伸ばす機会が多く与えられていると述べました。学園は、生徒の英語力を向上させるという目標を達成することに最も成功しています。

3.8 生徒たちは、数学的能力に優れており、他の学習分野でもその能力をうまく活用しています。日本の数学カリキュラムの使用は、生徒が年齢に見合った高度な数学的スキルを身につけることを可能にする上で非常に効果的です。知識が豊富で、計画的で、支援的な指導は、生徒の数的スキルの開発と応用を奨励しています。例えば、化学の生徒は、モルの計算に成功したり、有機分子の三次元の形をよく理解していたりすると、数学的なスキルをうまく応用していました。数学の能力が高い生徒には、より難しい課題や、教室での質問に答える機会、教師との数学的な議論の機会が与えられています。

3.9 生徒たちは、ICT スキルを十分に身につけています。生徒たちは、プレゼンテーションソフトの使用に非常に長けており、定期的にこれらのスキルを使って様々な教科の作品を作成しています。例えば、生徒たちは Japanese Day のために自分のプレゼンテーションを作成しました。基本的なスキルをカバーする授業の ICT プログラムはしっかりと構成されていますが、より洗練されたコンピューティング・アプリケーションを使うことはできていません。魅力的なメディアを作成するために ICT を使用する場合など、生徒たちは ICT スキルを活用していように見られますが、そのような活用はカリキュラム全体で一貫しているとは言えませんでした。

3.10 生徒たちは、ある程度の効果的な学習スキルを示しています。生徒たちは、さまざまな国の法律と人権に関する研究を、適切な範囲の資料を用いて、よく書かれた論文を作成することができました。家庭科の授業では、教室で適切な範囲の資料を使用していました。 寮生は、彼らが良い学習習慣を身につけるために、スタディタイムがどれほど役に立っているかを語ってくれました。 エッグドロップ・チャレンジのような調査作業は、生徒の高次の思考力を伸ばすことを奨励し、可能にしていますが、生徒が他の分野でこれらのスキルを開発し、応用する機会は限られています。

3.11 生徒たちは、熱心な競争相手であり、学校は生徒たちが学業とスポーツの両方の分野で競技会に参加する機会を提供しています。個人では、校内のスピーチコンテストやチェスの大会で良い成績を収めています。質の高い伝統的な俳句、日本の詩は、日本のコンテストで成功を収めています。生徒たちは、地元の学校やクラブとのサッカー大会やバスケットボール大会に定期的に参加しています。 地方と郡の両方レベルでサッカー部は結果を残しました。

毎月発行される学園通信では、生徒たちのこれらの成功を称えています。しかし、生徒たちが教室を超えてより広い範囲で成果を出せるようにする機会が不十分です。

3.12 ほとんどの生徒は、学習に対して積極的な態度を示しています。例えば、２年生の家庭科の授業で、生徒たちがグループプロジェクトの構成をどのように変更するかを決めたときなど、生徒たちは主体性を発揮しています。寮生は自分たちの学習にリーダーシップを発揮しており、時に夜間も利用できるようにされている教室で一緒に勉強することは、とても参考になると言っています。アンケートに回答した生徒の大多数は、自分で考え、自分で学ぶことを奨励されていると答えています。生徒たちは協力することに非常に優れています。生徒たちは、落書きアートを議論するためにグループで協力しているときやサッカー場や教室で効果的に協力している姿が見られました。

生徒の個人的な成長の質

3.13 生徒たちの個人的な成長の質は、良好です。【good】

3.14 生徒たちは、自信と自尊心の両方を着実に成長させ、卒業する頃には自己認識を持ち、成熟した大人になっています。監査官と話をした生徒会執行部のメンバーは、生徒会選挙の一環として行ったプレゼンテーションについて話しており、自己理解と自己認識の向上を示していました。生徒たちは、自己規律とレジリエンス（回復力）を十分に身につけており、ほとんどの生徒は新しい語彙の習得に取り組んでいることからも分かるように、学習に対して粘り強く取り組んでいます。生徒たちは、どのようにして改善していけばよいかをよく理解しています。担任の教師は、生徒と頻繁に面談を行い、大学への申請書など、生徒の望みをサポートしています。担任の教員は、生徒に関心を持ち、質の高い心のケアを提供し、生徒の個人的な成長に貢献しています。アンケートに回答したほとんどの保護者は、この学校が子どもの自信と自立を支援していることに同意しています。寮生は、寮生活の中で共に生活し、寮生活のあらゆる面に関わることを奨励されることで、自立心と自己認識を育んでいます。アンケートに回答した全ての保護者は、寮生活が子どもの成長に役立っていると答えています。生徒は学校生活の中で成功するために必要なスキルを身につけ、次の人生のステージに向けて十分な準備をしています。

3.15 生徒たちは、自分で決定する能力が非常に高く、自己決定をする意思があります。 たとえば、毎年どの慈善団体（チャリティ団体）を支援するか自分たちで決定しています。 授業では、３年生の生徒たちがグループに分かれてロンドンへの校外学習の計画を決めている姿が見られました。生徒たちは、監査官との話し合いの中で、自分たちの決定が自分たちの将

来にどのような影響を与えるかをよく理解していることを示していました。監査官と話をした生徒たちは、より重要な決定をする際に、担任の教員と他の教員の両方からサポートを受けていることを感じ、教職員に近づくことができているとコメントしています。

3.16 生徒たちは、生活の非物質的な側面についてよく考えています。 彼らは、江戸時代のキリスト教弾圧について行った調査の一環として、日本の教会に入ったときの気持ちを文章でよく説明しました。 3年生の英語コミュニケーションの授業では、幸福とは無形のものに大きく依存するものであることを考える際に、良い影響を示しました。アメリカの墓地や心の中の感情について書いた文章は、共感性と精神性の両方を示していました。しかし、宗教的・哲学的な問題に対する生徒の精神的な理解は、これらの分野を探求する機会が少ないために、それほど強くは発達していません。

3.17 ほとんどの生徒は、他の生徒や大人に対して行儀よく、礼儀正しく振る舞っています。何が道徳的に正しいのかを十分に理解し、自分の行動に責任を持っています。生徒は校則とその必要性を明確に理解しています。 3年生は、選挙権が義務化されるべきかどうかを検討する際に、道徳的な理解を示し、十分な根拠のある議論をしました。生徒が道徳的な理解を深めることができるような指導は成功しています。カリキュラムの多くの視点は、国連の持続可能な開発目標（SDGs）に支えられており、生徒は自分の権利と責任をより明確に理解することができています。このような焦点を当てることで、生徒たちは善悪の認識を高めることができています。これは、大型スーパーではなく、農場（ファームショップ）から食品を購入することに関連する倫理的な問題についての議論を含む非常に効果的な2年生の授業でも見られました。

3.18 生徒たちは、社会的スキルを十分に身につけており、他の生徒と効果的に協力して活動しています。彼らは、毎年行われる文化祭を準備するときや、サッカー部のトレーニングセッションに参加するときなど、一緒に働くことを楽しんでいます。訪問した多くのレッスンでは、食事の計画を立てたり、ホワイトボードで宿題に対する回答を見ながら一緒に作業したりと、小グループで効果的に作業している様子が見られました。生徒たちは、生徒会執行部に参加することを熱心に志願し、毎年の立候補演説ために自分のスピーチを作成します。生徒会執行部のメンバーは、生徒の意見を代表し、自分たちが学校の代表であることを誇りに思っています。すべての生徒が恩恵を受けることができるように、教室にロッカーを設置するなど、学校生活に変化をもたらすことに成功しています。寮生は、積極的に寮内でリーダーシップを発揮しています。生徒たちは、地元のクラブやスカウトに参加し、他の学校の生徒と交流することで、社会性と英語での会話力を向上させています。学校が主催する旅行や訪問は、これらの資質をさらに高めることができます。ほとんどの保護者とアンケートに回答した生徒の大多数は、学校が子供のチームワークと社会性を養うのに役立っていると答えています。

3.19 多くの生徒が学校や地域社会の生活に積極的に貢献しています。生徒たちは、慈善活動を通じて他の人のためになる活動に積極的に参加しています。例えば、2年生の全員が英国全土で行われるがん患者とその家族のサポートのために、コーヒーモーニングというイベントを

企画しました。毎年行われる文化祭で、生徒たちは慈善活動のために募金も集めています。生徒たちは、地域社会でのボランティア活動や、地元の企業やコミュニティグループでの職業体験を楽しみ、積極的に参加しています。 生徒たちは、これらの経験を監査官との話し合いの中でも、よく証明しています。 生徒たちは、持続可能な開発目標（SDGs）を達成するために行う活動の中で、より広い社会についての考える視点を養っています。 リーダーシップとマネジメントは地球市民としての倫理観を醸成する上で最も効果的であり、学園は生徒が国際的な視野を持った人間になるという目標を見事に達成しています。

3.20 生徒たちは、イギリスの学校というレンズを通して、日本文化に対する高度に発達したニュアンスのある理解と深い尊敬の念を持っています。生徒たちは、日本文化を祝い、より広い地域社会と共有することを楽しんでいます。このようにして、生徒たちは日本文化を祝い、共有することに重点を置き、学校にとって非常に効果的なアンバサダーとなっています。毎年行われる Japanese Day には、生徒たちは地元の公立学校の生徒たちに日本文化についてプレゼンテーションを行っています。地元の生徒たちは、日本の伝統的な衣装や書道、食べ物などを体験しています。生徒たちは、日本の神社「神輿」を作り、ロンドンで毎年開催される Japan 祭では、トラファルガー広場で生徒とスタッフが練り歩きました。生徒たちは、イギリスやヨーロッパへの旅行や訪問を通して、他の文化への理解を深めています。特に文化を学ぶ授業では、生徒たちがイギリスの文化をさらに探求することを可能にしています。生徒たちは、人間のセクシュアリティやジェンダー・アイデンティティに関する問題についてのクラス討論や、監査官が学校に滞在した時間を通して見られるように、敬意と寛容さを示しています。このことは、ほとんどの保護者やアンケートに回答した生徒の大半が、学校が積極的に民主主義、他者への敬意と寛容の価値観を推進しているという意見を裏付けています。

3.21 アンケートに回答したすべての保護者は、学校が子どもたちに健康的な生活を送ることを奨励することに同意しました。２年生の生徒は、健康を維持し、健康な習慣と不健康な習慣について十分に理解しており、アンケートに回答したほとんどの生徒は、オンラインで安全を保つ方法を知っていたと述べています。生徒たちは、精神的な健康の重要性を理解しており、特別なサポートが必要な場合には、スクールカウンセラー、ケアチーム、寮のスタッフ、または養護教諭に相談することができることを知っています。寮で日々行われるマインドフルネスのセッションがとても楽しいと寮生は言っています。また、活動的であることの重要性を理解しており、学校のプールを利用するなどの課外活動を楽しんでいると言っています。このように生徒たちが心身ともに健康であることを理解しているのは、学校がそのような意識の重要性を効果的に強調していることを校長と教職員が保証しているからです。

4. 監査証拠

4.1 監査官は、授業を観察し、生徒との正式な面談を行い、生徒の作品のサンプルを調査しました。また、教職員と経営者との話し合いを行いました。監査官は、寄宿舎、学習支援・教育リソースエリアを訪問し、監査前のアンケートに対する保護者、教職員、生徒の回答を分析し、カリキュラムや学校から提供されたその他の文書を調べました。

監査官

Dr Tracey Martin	報告監査官
Mr Stephen Challoner	コンプライアンスチーム監査官 (Director of staffing, HMC school)
Mr Peter Last	チーム監査官 (Headmaster, SofH school)
Mr Marcus Johnson	寄宿チーム監査官(Senior pastoral lead, HMC school)